

## 第 1 期方針の評価

第 1 期方針では、「管理の目的」を達成するための基本方針を 5 つ示し、それに対応する管理の目標を 5 つ設定した。5 年計画の 4 年目となる平成 27 年度末の状況は、未達成となる可能性が高い項目 4 つ、達成となる可能性が高い項目 1 つとなっており、方針に示された「管理の目的」の達成は困難な状況となっている。

管理の目標の達成状況については以下に詳述する。

### 目標の達成状況

\*ヒグマ保護管理方針検討会議（総括会議）資料 2-8 から抜粋、総括会議を経て一部を修正

#### 目標① 捕獲上限

斜里町・羅臼町内での計画期間内（5 年間）における 5 歳以上のメスヒグマの人為的な死亡（狩猟、駆除、交通事故等を含む）を総数で 30 頭以下とする。

→平成 24～27 年度で 5 歳以上は最大 41 頭（年齢査定が未了のため、年齢の確定は出来ず）となっており、目標を超過する可能性は高い。目標未達成となる可能性が高い。

#### 目標② 人身被害・危険事例

ヒグマによる人身被害及び餌付けなど人側の問題行動による危険事例の発生件数をゼロとする。

→人身事故は発生していないものの、危険事例は増加しており、目標は未達成。

#### 目標③ 農漁業被害・住民被害

農業・漁業などの産業への直接被害と、住宅地などにおける出没や被害を現状以下に減少させる。

→斜里町における農業被害金額は平成 24～26 年の減少傾向から平成 27 年に増加に転じた結果、平成 23 年に比べ平成 27 年は減少している。一方で、住宅地における出没や被害も減少しているとは言い難い。目標は一部未達成となる可能性がある。

#### 目標④ 利用拠点の安定運用

遺産地域においては、歩道やキャンプ場閉鎖等の発生件数を減少させると共に、現状以上に安全かつ安定的な自然体験の場を確保する。

→利用調整地区制度の導入により、知床五湖地上遊歩道は安定運用がほぼ実現しているが、フレペの滝遊歩道や登山道等では閉鎖や遭遇は減少しておらず、安全かつ安定的な自然体験の場が方針策定時以上に確保されたとはいえない。軋轢は増加しており、目標は未達成となる可能性が高い。

### 目標⑤ 普及啓発

利用者や地域住民への普及啓発を推進し、ヒグマに関わる安全対策や、共存するための知識を現状以上に浸透させる。

→ヒグマえさやり禁止キャンペーン、地元小中学校でのヒグマ学習の拡充、フレペの滝遊歩道散策者への事前レクチャー試行などを実施し、目標は達成したと考えられるが、カメラマンによる接近撮影が発生するなど、問題行動を取る観光客や地元住民が一部にあり、普及啓発に課題は残る。